

課題改善カリキュラム 今年度の主題 『数と式』の単元における、誤答に対する手立て(案)

	小学1年	小学2年	小学3年	小学4年	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年	中学3年
	ひき算	かけ算	かけ算の筆算	わり算の筆算	分数のたし算	分数のわり算	文字の式	式の計算	平方根
誤答に対する手立て	<p><b>○問題文の把握</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>問題文に線を引き、たし算やひき算になるキーワードをおさえる。「あわせて」「みんなで」「ぜんばんずで」→たし算</li> <li>「のこりは」「ちがいは」「どちらが、どれだけ～」→ひき算</li> <li>単位にあたる言葉に線を引いたり、丸で囲んだりして、答えの表記につながるよう意識させる。</li> </ul> <p><b>○10の合成・分解</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>10の合成・分解をフラッシュカードなどを利用したり、簡単な計算を毎時間繰り返し解かせたりすることで、10のまとまりを作って計算するための力を付けさせる。</li> </ul> <p><b>○具体物の操作</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ブロックやおはじきなどの具体物を使って実際に操作することで、数に対する理解を深めさせる。</li> </ul>	<p><b>○既習事項のプリント</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>10のまとまりをつくりその数を数えて総数を求める。</li> <li>2とびや5とびで総数を求める。</li> </ul> <p><b>○具体的な操作活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>乗法の場面を絵やアレイ図、おはじきなどの半具体物で表し、「1つ分の数」に着目させたり、その「いくつ分」ととらえたりする。</li> </ul>	<p><b>○フラッシュカード</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業のはじめに、かけ算九九や、0のかけ算、10倍、100倍、<math>3 \times \square = 18</math>などの基礎的な問題をフラッシュカードで確認することで、即座に答えられるようにする。</li> </ul> <p><b>○筆算の意味</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>いきなり筆算の仕方を教えるのではなく、位ごとに分けて計算することを体験して筆算につなげることで、筆算の意味を理解できるようにする。</li> </ul> <p><b>○計算練習</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>計算ドリルやプリントなどで、かけ算の計算の仕方を繰り返し練習させ、定着させる。必要に応じて空いた時間に個別指導をしたり、宿題に出したりする。</li> </ul>	<p><b>○前時のふり返り</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>毎時間のはじめに、既習のわり算ふり返りをする活動を取り入れる。</li> </ul> <p><b>○プリント、計算ドリル等の活用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>プリントで復習を行う。</li> <li>「わり算の筆算」のミニテストで、商の見積もり方を定着させる。</li> <li>東京ベーシックドリルで復習し、学習事項の定着を図る。</li> <li>計算ドリルの宿題で、計算練習をして習熟を図る。</li> </ul> <p><b>○既習事項の掲示</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「かけ算九九のカード」を階段に掲示して、常時確認できるようにする。</li> <li>「たてる」「かける」「ひく」「おろす」の手順や筆算のパターン(空位のある筆算等)を掲示しておく。</li> </ul> <p><b>○個別指導</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>算数少人数担当の教員が、中休みや昼休みに基礎基本の定着を目指して個別指導を行い、習熟を図る。</li> </ul> <p><b>○地域との連携</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域未来塾を活用し、四則計算の復習と定着を図る。</li> </ul>	<p><b>○約分フラッシュカード</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>毎時間のはじめにフラッシュカードで約分を確認することで、確実に身に付けられるようにする。</li> </ul> <p><b>○既習を想起させる掲示物</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>約分をするためには、約数を見付けられなければならない。そこで、「2でわりきれぬ整数(一の位の数が偶数)」や「5でわりきれぬ整数(一の位が0、5)」を掲示しておくことで、約分を見付けるヒントにする。</li> </ul> <p><b>○図の活用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>誤答1のように分母同士をたしてしまう児童が多い。面積図などを用いて具体的に理解できるようにする。</li> </ul> <p><b>○個別指導</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>給食準備中に、算数少人数担当の教員が理解の遅い児童を集めて個別に指導することで、問題の練習量を増やし、基礎基本を確実に身に付けられるようにする</li> </ul>	<p><b>○既習事項のプリント</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>単元に入る前に宿題や朝の学びタイムで「最大公約数を求める問題」と「約分の問題」を中心に既習事項の復習プリントを行い、既習事項の定着を図る。</li> <li>児童の実態に応じて、「<math>\div</math>整数 <math>\div</math>小数の計算」「数直線を根拠にした単位量の求め方」「除法のきまり(除数と被除数に同じ数をかけても、同じ数をかけても商は変わらないこと。)」についてもプリントで復習を行う。</li> </ul> <p><b>○ジャマイカの活用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業のはじめに、四則計算を活用して、決められた複数の数で目的の数を作る活動を取り入れる。</li> </ul> <p><b>○復習ミニプリント、計算ドリル、東京ベーシックドリル</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>単元の中で学習したことを宿題や朝の学びタイムで復習し、学習事項の定着を図る。</li> </ul> <p><b>○確認ミニテスト</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>単元の学習終了から時間を空けて実施する。学習の定着を児童自身が確認し、間違っているときにはどんな復習をしたらよいか考えて、自主学習に活かす。</li> </ul>	<p><b>○補充プリント①</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3～5題の計算問題</li> <li>小学校からの復習</li> <li>3分程度で実施</li> <li>自己採点、ファイルに綴じる</li> <li>毎授業の始めに行い、学習に取り組む姿勢を習慣づける</li> </ul> <p><b>○補充プリント②</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>A4両面の問題集</li> <li>小单元ごとの復習</li> <li>20分～40分程度で実施</li> <li>自己採点、ファイルに綴じる</li> <li>演習の量をこなし、習熟する。静かな環境で集中して取り組むことや、他の生徒と学び合うことなどの手法を用いる。</li> </ul> <p><b>○指導法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>誤答例を板書し、どこをどのように間違っているのか、生徒に考えさせる。</li> <li>演習の前に短時間で確認する。</li> <li>数学班をつくり、学び合いの姿勢を習慣づける。</li> </ul>	<p><b>○補充プリント①</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3～5題の計算問題を授業の始めに行い、学習に取り組む姿勢を習慣づけ、集中力を養う。</li> </ul> <p><b>○補充プリント②</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>A4両面プリントを小单元ごとに実施している。『学び合い』を行い、一人一人の間違いを仲間から指摘してもらったり、分かるまで教えてもらったりできる機会をつくり、単元の習熟を深める。</li> </ul> <p><b>○その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>同様の問題を定期考査に出題し続け、生徒が学習する機会を増やす。</li> </ul>	<p>○同様の問題を定期考査に出題し続け、生徒が学習する機会を増やす。</p> <p>○試験前に復習時間を設け、反復練習を行うようにする。</p> <p>○3学年は『学び合い』の授業を展開しており、一人一人の間違いを仲間から指摘してもらったり、分かるまで教えてもらったりできる機会がある。誤答のパターンは多数あり、一人一人状況が違うが、それに対応できる学びの場があることが重要である。</p> <p>○反復練習の場面で、この問題の類題について相談をしている生徒から質問があり、ヒントを与自分たちで気づけるように促した。その生徒は定期考査の問題は正解していた。</p>